

平成28年度 世界農業遺産小学生作文コンクール 入選作品集



○最優秀賞

国東市立武蔵東小学校 さとう あいり
佐藤 愛莉 「身近な宝物」

○優 秀 賞

国東市立旭日小学校 なんば りお
難波 莉桜 「私たちにできる事から」

豊後高田市立田染小学校 ふしはら ことみ
不死原 琴海 「世界農業遺産『田染』との出会い」

○入 選

杵築市立大内小学校 うえむら たいせい
植村 泰成 「ため池を大切に」

杵築市立北杵築小学校 たかやま せいな
高山 聖菜 「クヌギ林とため池が育む食料」

杵築市立大田小学校 かねみつ ことこ
金光 琴子 「祖父と祖母から学んだこと」

国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会



国東半島宇佐地域世界農業遺産 Kunisaki Peninsula Usa GIAHS

○最優秀賞 「身近な宝物」

国東市立武蔵東小学校 6年 佐藤 愛莉

私はこのあいだまでかなへびをかっていました。かなへびに日光浴をさせようと思い、外に出していたら部屋の中に入れることを忘れてしまい、死なせてしまいました。

その後お墓をつくらうとして、びんに土を入れてかなへびをうめようとしたら、お父さんが、

「びんに入れたらだめ。土にうめないよ。」

と言ったので、「どうして」と聞くと、

「死んでしまったかなへびを土にうめると土の肥料になり、その土で草木が育ち、その草木を生き物が食べて育つんだよ。」

と教えてくれました。

私は、このような循環じゅんかんを知り、とても興味をもちました。調べてみると、しいたけにもそのような循環じゅんかんがありました。しいたけを育てたほだ木は栄養がなくなって、廃ほだ木になり、廃ほだ木と落ち葉はクヌギ林をつくる膨軟ぼうなんな土壌の保水層を形成し、豊かな自然はほだ木を作るということをくりかえしています。

この循環じゅんかんは、地下水かん養・水質浄化・水辺風景の形成・生物多様性などを維持するため池が必要だということです。

他にも国東半島にしかないシチトウイなどのすばらしい遺産があります。

このすばらしい自然のシステムを守っていくためには、人が環境をよくしていき、自然を守っていくことが大事だと思います。しかし、そのようなことをするととてもやさしい心をもつ人がいても、ゴミなどいろんなところに捨てたりする人もいると思います。

そういう心をなくし、みんながやさしい心を持つことで、みんながすごしやすい地域ちいきになると私は思いました。

だから、世界農業遺産に選ばれた私の生まれ育っている国東をととてもほこりに思います。これは、国東の人が私たちが生まれる前から努力し、つくり上げた自然の宝物への功績だと思います。

私は、これからこの自然のシステムをずっと守り続け、自然の大切さ、自然のすばらしさを学びたいです。

そして、私が大人になっても、国東のすばらしい自然を守りながら、次の世代に伝えていきたいです。

○優秀賞 「私たちにできる事から」

国東市立旭日小学校 6年 ^{なんば}難波 ^{りお}莉桜

国東半島宇佐地域には、世界農業遺産に認定されているものがたくさんあります。世界農業遺産には、姫島のクルマエビ、杵築の城下町、国東の両子寺や文殊仙寺など、まだまだたくさんの方が認定されています。

では、このような世界農業遺産に認定されている食べ物や文化遺産はどのようにして守られ続けているのでしょうか。

世界農業遺産は、なんと、クヌギ林とため池が中心的存在となり、守られ続けているのです。私はその中でも、ため池の事について注目しました。

私の住んでいる国東市旭日地区だけでも、たくさんのため池があります。

私が5年生の時に、ため池のすばらしさを学ぶため、秋に「ため池めぐり遠足」という遠足がありました。数ヶ所のため池をめぐり、ため池の大きさ、便利さ、造った人、造る時の大変さなどを学ぶというものでした。

私はその中でも、高雄池というため池が一番心に残り、興味をもちました。高雄池を造ったのは萱島信任さんかやしまのぶとという人でした。萱島信任さんのお父さんは一度ため池を造ったものの失敗し、あきらめてしまいました。しかし、萱島信任さんはけっしてあきらめようとはせず、夜もねることなく働き続け、地区のみんなと知恵や工夫を出しあい、高雄池を完成させました。私は高雄池を造る時、中心的存在となってくれた萱島信任さんに、今とても感謝をしています。そして、萱島信任さんから、何事もすぐにあきらめないで前へと進む事が大事だと学びました。

そのすばらしいため池と世界農業遺産を支えるクヌギ林じゅんかんは、循環システムというシステムでつながっています。

では、ため池とクヌギ林をつなぐ循環システムとは一体どのようなしくみでしょう。

クヌギ林じゅんかんの循環は多様な生態系や受け継がれる農耕文化をうみ出し、ため池がもたらす水の循環じゅんかんはすばらしい景観をうみ出しています。また、クヌギ林の循環じゅんかんとため池がもたらす循環じゅんかんが連携して、乾しシイタケやお米などの農林水産物をうみ出しているのです。この事から、クヌギ林とため池がとても大事だという事がわかりました。

では、国東半島宇佐地域にとって大切であるクヌギ林とため池を長年守り続けるために、私たちにできる事はなんでしょう。

まず、一番はクヌギ林やため池を大切に思い、大事にすることです。クヌギ林やため池を見つけてもゴミを捨てたりはせず、逆にゴミ拾いをするのもよいと思います。そして、クヌギ林とため池の大切さをたくさんの人に伝えることも大事だと思います。そうすると興味を持ってくれる人がいるかもしれないからです。今あげた2つの事は小学生でもできる事です。自分から進んで私たちにできる事を考え、実行していきたいと思います。

○優秀賞 世界農業遺産「田染」との出会い

豊後高田市立田染小学校 6年 ^{ふしはら}不死原 ^{ことみ}琴海

私は4月に兵庫県からこの田染に転校してきました。友達や先生方から、「どうして田染に来たの。」

と聞かれました。私はよく分からないのでお母さんに聞いてみると、暖かいところに住みたいと思って九州を考え、子どもたちを豊かな自然に恵まれた所で育て、学校へも徒歩で通わせたいと望んでいたからだそうです。学校の様子などはホームページで見て、田染にちょうどよい距離のおうちが見つかったので決めたそうです。

私が田染に来ておどろいたことは、田んぼや川や神社がたくさんあることです。私の家の近くにも川や大きな岩山があります。

5月の連休に三ノ宮の川でふれあいボートがありました。私はボートに乗るのは初めてで、もちろんこぐことも初めてでした。田染小の友だちが教えてくれて、自分で何回か練習してボートをこげるようになりました。その時はとてもうれしかったです。川の中の様子を見てみると、水草があったり小さな魚が泳いだりしていました。友だちが「これ知ってる。“鬼びし”っていうんで。」

と言って取ってくれました。川と親しんでみて感じたことは地域の方々が自然をととても大切に守っていることや、恵まれた自然だからこそ生き物も元気な事がわかりました。

6月に田染小学校で「ふるさと学習」をしました。第1回は田染荘のことです。田染荘は今でも昔の田んぼの形を残していて、初めて見る光景でした。田んぼの少しおくの方に行くと、雨引き社という神社がありました。そこで雨ごいをしていたそうです。雨がふらなければ田植えができないからです。水が届く所ぐらいまで田んぼがあり、水が届かない所に里山ができていました。田染荘を囲むような感じで山があり、山にも里山とおく山があることを初めて知りました。里山とは人間が山に入ってよい所で木の実を採って食べたり、たき木にする木を切ったりして、人々の生活を助けてくれる山のことで、おく山とは神様がいらっしゃる山でこの山には人は入ってはいけない山だったそうです。

私は、このふるさと学習で今まで知らなかったことが分かって本当にためになりました。

田染荘がなぜすばらしいのかが、よくわかりました。昔の田んぼの形がそのまま残されて昔からの土の水路があること、田んぼを囲んで里があり、里山とおく山があることです。このように全部がそろっている所が田染荘です。だから、世界農業遺産になったのだと思いました。

私は、第2回、第3回のふるさと学習が楽しみです。また新たな発見をしたいからです。

これからも、ずっと田染荘を大切に残していけるように、みんなにすばらしさを伝えていきたいです。

○入 選 ため池を大切に

杵築市立大内小学校 6年 植村 泰成 うえむら たいせい

ぼくたちの住む杵築市を含む国東半島宇佐地域は世界農業遺産に認定されています。世界では15か国35地域*が世界農業遺産に認定されています。国東半島宇佐地域の他にも8か所の地域が認定されています。世界15か国35地域*の中に国東半島宇佐地域が選ばれているのですごいと思います。

国東半島の地形はおわんをひっくり返したような形をしていて、雨はすぐに地面や海に流れるようになっています。火山性の土壌のため、水は浸透しやすく、水を確保するのが難しい土地です。そこで人々は小さなため池をたくさんつくってつなげて農業に使ったそうです。

ぼくたち6年生は、5年生の時に社会科の学習で「黒岩ため池」という場所に見学に行きました。見学に行った目的は米作りで使う水のゆくえを調べるためでしたが、そのため池を説明してくれた方が世界農業遺産に登録されていることを教えてくれました。見学したため池はとても大きくてそこから水田へ水を送る役目をしたり、魚たちのすみかとなったりしていました。

さらに、ため池にたまっている水を利用してシイタケさいばいもできる環境をととのえてくれているそうです。シイタケさいばいにはクヌギのほだ木が必要です。そして、使い終わったほだ木は肥料となり、クヌギ林に降った雨とともに土の中で栄養いっぱい土じょうを作ります。この水を使った作物は良く成長し、さらに水まで流れていき、たくさんの魚を育てる漁場が作られているそうです。ぼくのおばあちゃんの家竹林では、シイタケさいばいをしています。よいシイタケを育てるにはきれいな水や土、木が必要です。ぼくは、実際におばあちゃんの家でとれたシイタケを食べたことがあります、いつもおいしいです。つまり、農業に適した土地の地形になっているのです。

また、1学期に理科の学習で血液循環じゆんかんを勉強しました。ため池もスタートとゴールが同じになり、血液循環じゆんかんのような仕組みとなっていて、わかりやすかったです。ため池の人の話だと、昔の人たちはため池を全て手作業でつくっていたと言っていたので、それを聞いて昔の人はとても大変な思いをしていたんだと思いました。今は機械があるので短時間で効率よく作業が進められているので、とても便利だと感じました。

ぼくがため池見学を通してわかったことは、ため池はお母さんのような役割をしていることです。水田に栄養のある水を送らないといけないし、土にも海にも栄養たっぷりの水を送らないといけないのでとても大変です。これからは、水を粗末にせず、大切に使いしていきたいです。そうすれば、ため池も少し楽になるのではないかなと思います。

(※2017年1月現在、16か国37地域)

○入 選 「クヌギ林とため池が育む食料」

杵築市立北杵築小学校 6年 ^{たかやま}高山 ^{せいな}聖菜

3年前、国東半島宇佐地域が世界農業遺産に認定されました。国東半島には、ため池が約1200箇所あります。ため池は、昔の人たちが、雨が降らない日が続いたとき、水不足にならないように、そして、農業にも使えるように苦労してつくったそうです。ため池はクヌギ林の循環じゅんかんと連携しています。そのため、農林産物と関わりがあります。だから、私はクヌギ林を大切にしたいと考えています。

クヌギ林と関わりのあるものの一つめは、農林産物です。農林産物でも特に、シイタケと深い関わりがあります。シイタケ栽培でクヌギ林を伐採し、シイタケ菌の入った駒を打ちます。そして、2年かけて伏せ込みをしたら、毎年のようにシイタケができます。大分県は、乾シイタケの生産量が日本一です。農業遺産について調べているとお父さんから、

「相撲のとき、優勝したらシイタケ1年分をあげていたんだよ。」

と聞いて、びっくりしました。私の家もシイタケ作りをしています。家のうらにはたくさんのクヌギがあり、毎年たくさんのシイタケが収穫できます。手伝いでシイタケをとります。持って帰るとき、かごいっぱいなのでおどろきました。おばあちゃんが収穫したシイタケを乾して、乾シイタケにしています。そして、みそ汁に入れたりもしています。

クヌギ林は海とも関わりがあります。クヌギ林に降った雨はたくさんの栄養を含んだまま、ため池に溜まります。その水を使った作物は良く成長し、さらに水は海まで流れ、魚の栄養にもなり、豊かな漁場が作られます。

二つめはため池です。クヌギ林の落葉が保水マットを作り雨水を保全しているため、ため池にはいつも一定に保たれます。そのため、クヌギ林とため池は連携しています。だから、カブトガニなどの生態系、鋸山のようにすばらしい景観などとも関わりがあります。

クヌギ林やため池がなくなってしまうと、シイタケなどの農林水産物が作れなくなります。杵築市で木を切り落とすことはないけど、他の地域では切り落とした物を製品にするところがあります。今後、このようなことがないように、シイタケなどを作ってほしいです。そして、切り落とそうとしている人がいたら反対してクヌギ林などの自然を守っていきたいです。

○入 選 「祖父と祖母から学んだこと」

杵築市立大田小学校 6年 かねみつ 金光 ことこ 琴子

私の祖父は74歳で、地域の人と一緒に「里の農場」という所で活動しています。私の住んでいる大田では高れい化が進んで農業をする人が少なくなっているため、田んぼがあれのを防ぐために「里の農場」がつけられたそうです。耕作ほうき地を使ってイネ・大豆・麦を植えています。なすなどの野菜も作っています。いろいろな所から農業体験に来る人もいます。「里の農場」では、生産から販売まで全部、祖父達がしています。

祖母は閉校になった学校の家庭科室を使って、「すずかけの会」という加工食品グループをしています。農場でとれたなすを使ってなすジャムやなすのコンポート、地域でとれたよもぎを使ったおもちを作っています。農場で形が悪かったり、傷がついていたりするなすが捨てられているのを見て、「食べられるのにもったいない」「何か使えないか」と思ったのが、「すずかけの会」の始まりだそうです。地域のおばあちゃん達が一緒に活動しています。

私は、改めて世界農業遺産のことを調べるために祖父に話を聞いてみました。農場では農薬と化学肥料を半分以下におさえて、米作りをすることで、カブトエビが見られるようになり、ホタルも増えたそうです。牛を育てている農家から牛ふんたい肥をもらい、かわりに米作りに出たわらを牛のえさにあげています。この事を循環型農業じゅんかんというそうです。私は、環境にもいいし、無駄がなくいいなと思いました。

農業遺産では、クヌギ林とため池のことについて勉強しました。祖父も山のほだ木を使ってシイタケを育てています。私もこまうちを手伝ったことがあります。こまうちの後から2年後に収かくできます。家で作ったシイタケは学校給食に売ったり、お米を買ってくれる人に季節の野菜といっしょにつけたりします。

私たちは4年生の時に、ため池について調べました。大田には多くのため池があることが分かりました。祖父たちが作ったため池もあるそうです。大田のため池も作物や動物のために大切な役目をしているんだなと思いました。

私は、今年の夏にキャンプで横岳自然公園に行きました。そこでは、アサギマダラが好きな花を植えたり、卵を産む葉っぱを育てていることが分かりました。それから、クヌギなどの落葉樹は葉が落ちて土になって雨水をためたり、植物や生き物の栄養になって、また新しく生まれ変わっていることを知りました。

私は将来、さらに大田を良い環境にし、祖父の願っている安全安心な農業、農業をさかんにすることを忘れずに、色んな活動に参加していきたいです。